

札幌市立幌西小学校の取組【雪に関する教育課程】

1. 研究のねらい

本校は、札幌市の中心部に位置し、住宅地が多い地域である。特に冬期間、子どもたちは外で活動する場が少なく、体を動かすことが少なくなる。「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」の結果から鑑みても、本校の子どもたちは体力があるとは言い難いところがある。また、昔からの住宅地であり、雪かきの問題は切実で、場所によっては道路が雪でかなり狭くなってしまふなど、雪との付き合い方について見直しが必要な面もある。体力をつけるとともに、雪とよりよい共存を目指そうと意識できる子どもたちに育てたいと考えた。また、雪が大好きな子どもの発想を生かし、自分自身が楽しむことを大切にしたい。更に、冬を苦手としている多くの大人に、自分たちが体験した雪の楽しさを伝えていく活動を考えた。

2. 取組内容

(1) 冬休み前に雪の学習を始める

①雪の楽しさを考えよう

雪のウェビングマップをもとに自分が実践したい活動を考えた。活動を座標軸に位置付けることにより、他者の思いや考えを共有することをねらった。雪をより楽しむために、友達や家族と行いたい活動が表出された。

さらに、社会の学習経験から除雪について、一人一人の考えを引き出した。除雪の問題点について、自分たちでできることや、除雪を楽に行う工夫を考えていた。



②雪かきと体力

教育委員会の事業「雪かき汗かきチャレンジ」の実施を子どもたちに伝えた。また、本校のスポーツテストの結果も伝えた。そこで、「雪かきをすると体力が上がるのか」と投げかけた。それらを明らかにするために、20mシャトルランを行い、冬休み中に雪かきを実施した後で、結果が伸びているのかどうかを検証することにした。



(2) 調査・体験・実験

①インタビュー

自分たちは雪かきをするし、楽しいけれど、家の人は「いやだな。」と言っていたような気がする、という反応が子どもたちの中に見られた。そこで、家の人へインタビューをしてみることから調べ学習を始めた。好きか嫌いかだけでなく、雪かきのどのようなところが好き・嫌いなのか、どのような道具を使っているかなど、様々な観点で調べてみる活動を行った。また、近所のお年寄りの家の雪かきを手伝うことで褒めてもらう、雪かきをすると家の周りがすっきりして気持ちがよいといった雪かきのよさに、改めて気付くことができた。

②雪かき汗かきチャレンジ

冬休み前に、雪かきについてある程度調べておくことで、「実際にやってみよう。」「早く雪が降らないかな。楽しみだな。」という声がたくさんあがった。3学期の始業式には、「先生、こんなに頑張ったよ!」と、チャレンジカードを提出してきた。しかし、今年度の冬休みは積雪が少なかったため、思うように雪かきをする機会に恵まれなかった子どもも多くいたようだ。



3. 成果と課題

(1) 成果

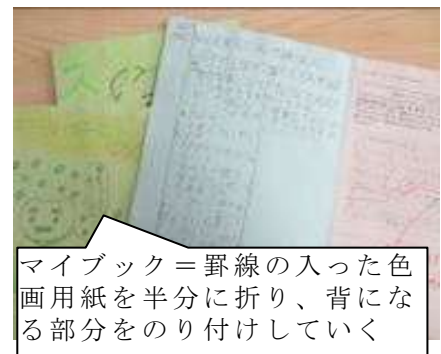
本実践では、「雪の楽しみ」と「雪かき」の2本柱で学習を進めた。

「雪の楽しみ」においては、「雪遊び」「アイス作り」「雪まつり」などをテーマに設定し活動するグループがあった。また、「楽しみ」にとどまらず、「雪の利用」という視点まで広げ、「雪下野菜」や「雪冷房」について調査・実験するグループもあった。

「雪かき」について活動したグループも「体力増進」「効率的な除雪方法」など、視点を替えながら調査を進めることができた。

このように、「雪」について多面的に追究し見つけ直したことを共有することで、研究のねらいでもある「雪との共存」という意識が高まったことが、本実践の成果である。

さらに、学習を進めるに当たり、「マイブック」としてまとめていくことで、学びの足跡を蓄積していった。そのことで、自らの雪に対する見方や考え方の変容を実感することに有効であったと考える。



(2) 課題

調査のテーマが多様になることで、子どもたちが自主的に授業時間以外も活動を行うことがあった。休日や放課後などに活動する場合には、安全に配慮し、地域や保護者との連携を密にとっていく必要がある。